

イデックスオイルレポート ~For a week~

2022/9/2作成 (株)新出光

【概況】<OPECプラス減産?~中国西部で感染拡大によるロックダウン>

●26日、パウエルFRB議長は26日、西部ワイオミング州ジャクソンホールで開催中のシンポジウムで講演し、高インフレ抑制のため、金融引き締めを「しばらくの間」維持する必要があると表明。物価安定へ「決意を持って行動する」と強調されました。積極的な利上げ継続に伴い一段の景気悪化となれば、エネルギー需給への影響が広がるとの警戒感が台頭し、相場は一時91ドル割れに迫りましたが、売り一巡後は相場は93.06ドルへ反発しました。

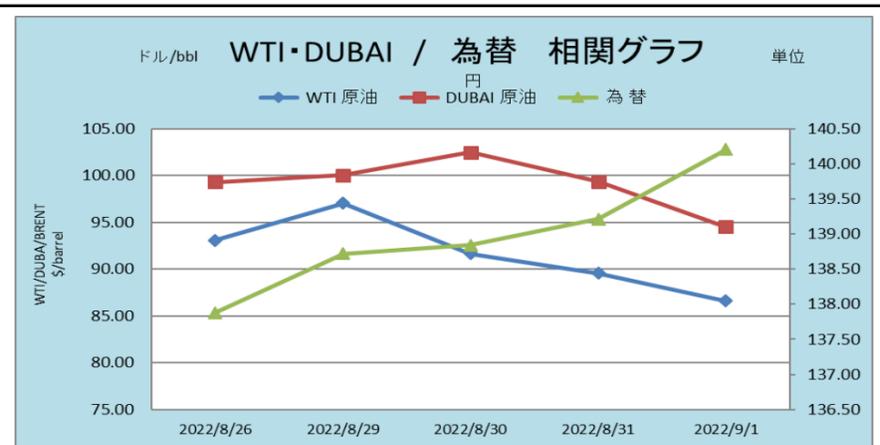
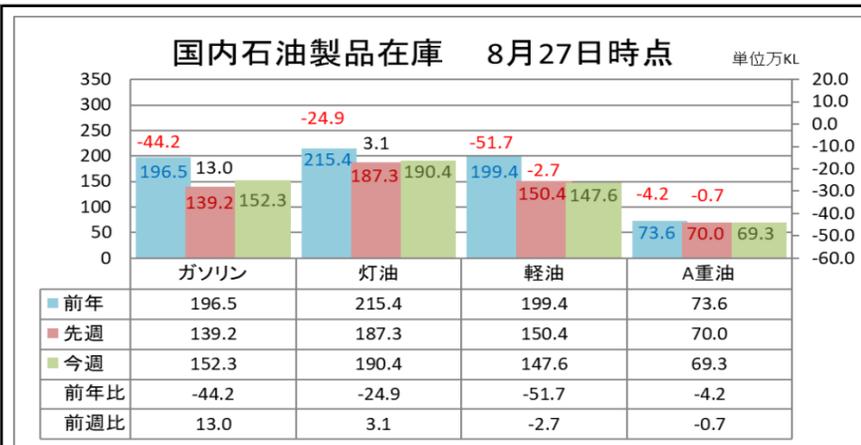
●29日、OPEC加盟・非加盟国で構成する「OPECプラス」は9月5日に閣僚級会合を開催されます。OPEC盟主であるサウジアラビアのアブドゥルアジズ・エネルギー相が先週初め、OPECプラスが減産に踏み切る用意があると発言したことに対し、アラブ首長国連邦(UAE)、スーダンなど数カ国がサウジの方針を全面的に支持しているとの事です。供給削減への警戒感が台頭する中、原油は買い進まれ相場は97.01ドルへ続伸しました。

●30日、米連邦準備制度理事会(FRB)や欧州中央銀行(ECB)が大幅な利上げを継続して行くとの見方が広がっています。世界各国の利上げに伴う景気減速に警戒感が広がる中、エネルギー需要見通しに懸念が広がり、原油が売られ相場は91.64ドルへ急落しました。

●31日、米欧の金融当局がインフレ抑制に向け、9月にそろって大幅利上げに踏み切るとの観測が浮上しているほか、この日は中国経済の先行き不安も台頭。同国国家統計局が発表した8月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は、2カ月連続で景況拡大・悪化の分岐点となる50を割り込みました。また、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、広東省深セン市などが再びロックダウン(都市封鎖)を実施していることが冷や水となり相場は89.55ドルへ続落しました。

●1日、中国西部の大都市、四川省成都市が、新型コロナウイルス感染拡大に対処するため、市民の外出を原則禁じる方針を発表されました。また、中国メディアの財新と米S&Pグローバルが同日発表した8月の中国製造業購買担当者景況指数(PMI)は景気の拡大・縮小を判断する節目の50を割り込み、これを受けて、中国景気の先行きに懸念が広がり、エネルギー需要見通しにも影響が出るとの見方から原油が売られ相場は86.61ドルへ続落しました。

9月2日 16:30現在 WTI原油 88.19ドル 為替 1ドル 141.09円



	次回元売変動予測	
	9/8~	元売変動予測
ガソリン	→	-1.1
灯油	→	-1.1
軽油	→	-1.1
A重油	→	-1.1
LSA	→	-1.1

※原油コスト「-1.5円」
 ※激変緩和補助金「-36.7円」
 ※現時点での予測です。

【製品卸価格】<ガソリン、灯油は玉不足、9月2週目は、値下げ見込みのため市況悪化?>

【今週】今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストはサウジ調整金+2.4円を含め、「+9.0円」、補助金は、「-37.1円」、都合「+4.3円」の値上げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの29日時点の小売価格平均は168.5円となっております。今週は、元売り週間玉を持つ業者が優勢で、月間玉を持つ業者は原油情勢をリサーチし様子を見ている状況です。

【9月3日以降】次回の元売り改定は、原油コストは「-1.5円」の値下げ改定予測で、激変緩和補助金は「-36.7円」の見込みで、都合「-1.1円」の値下げ改定の予測となっております。原油価格の下落により次回の値下げ改定が見えており、元売月間玉と市況連動玉を持つ業者は、市況が下落する前に販売する方が得策と考え、徐々に販売を開始しています。但し9月5日のOPECプラスの会合で、「減産に同調する国が増えるかどうか」が注目が置かれている為、元売週間玉を持つ業者は、現在のところでは水面下で販売を行い、来週早々では会合の結果次第で販売強化する可能性もあります。また、製油所稼働率も七カ所の製油所で、FCC装置等のトラブルが発生し稼働率が低下している為、今月もガソリン・灯油については、タイトの状況になると思われます。

【次世代エネルギー】<木質チップと地熱で水素製造へ 全国初の施設が九重町に完成>

清水建設は、大分県九重町に低コストでグリーン水素を製造する実証プラントを完成されました。環境省の「地域共創・セクター横断型カーボンニュートラル技術開発・実証事業」の一環で、清水建設とエネサイクル(宮城県大崎市)、大日機械工業(横浜市西区)など5社で共同開発した低コスト・グリーン水素製造技術を活用されます。実証プラントは8月~12月に、約25日間の連続運転を3回実施予定です。水素の製造能力や純度の検証と、製造コストやCO2排出量の算定を行い、実用化を目指したいとの事です。次世代エネルギーとして注目される水素を木質チップと地熱エネルギーを組み合わせることで製造する全国初の施設との事です。

施設では、木質チップを燃焼させて炭にしたうえで、地下から取り出した高温の水蒸気と反応させることで水素を製造します。地熱や木材といったバイオマス資源を活用し、市販の水素に比べ水素製造時の二酸化炭素(CO2)排出量を10分の1以下にすることを目標とされます。また、製造コストを太陽光など再生可能エネルギーを使う水電解水素の3分の1以下にする目標も掲げられています。

[出典]

① <https://newswitch.jp/p/33176>